

# 「港の風景」写真コンテスト 2025

本コンテストは、写真を通じて津々浦々の港や海辺の四季折々の姿を表現していくだけ、ともすれば港と疎遠になりがちな方々に対してその魅力を再認識していただくと共に、ウォーターフロントへの関心を高めていただくことを目的としています。

今年で34回目の本コンテストには、541点の応募がありました。いただいた作品に対して令和7年10月24日に厳正なる審査を行った結果、次のとおり入選作品を決定いたしました。

## 総評

今年の上位入賞者の方々から、ご自身の受賞作品に込めた思いなどを伺う機会がありました。あくまでも参考として、その中で共通して見られた特徴をいくつかご紹介します。

まず一つ目は「意図」です。自分が何に心を動かされたのか、その感動をどのように写真で表現し、見る人に伝えたいのか。撮りたいもの、伝えたいことといった作品の意図が明確であるということです。

二つ目は「執念」です。満足のいく最高の瞬間を求め、同じ場所に何度も足を運ぶ。作品に向き合う強い執念が伝わってきました。

三つ目は「観察力」です。テーマである港を丁寧に、じっくり観察する姿勢です。その観察力こそが既成概念にとらわれない独創的な作品を生み出す源になっているように感じます。

写真は自由です。港という舞台で皆さんが出会い、心を動かされた一瞬の輝きを写真に残し、本コンテストを通じて多くの人たちと共有していただけたら、これほど嬉しいことはありません。来年もまた、チャレンジングな作品のご応募を心よりお待ちしています。



<b>燃ゆる空</b>	最優秀賞
奥谷 裕	堺旧港



大規模な臨海工業地帯を支える堺泉北港。その一角に今も大切に保存されている旧堺燈台は、明治10年から昭和43年まで、約1世紀にわたり港の安全を見守り続けてきました。本作品は、その旧堺燈台がまるで現代に甦ったかのような、ドラマチックな一瞬を見事に捉えています。赤く燃える夕焼けを背に、後光をまとったかのように力強く、堂々と聳える旧堺燈台。その姿は、神々しく、圧倒的な存在感を放ち、いまも変わらず港を静かに見守っているようです。作者はこの瞬間に巡り合うために、何度も何度も現地に足を運び、シャッターチャンスを待ち続けたそうです。

# 「港の風景」写真コンテスト2025



飛鳥Ⅲデビュー  
国土交通省港湾局長賞

大島正美 横浜港大さん橋国際客船ターミナル



2025年7月20日。大勢の人々に見送られながら、新造クルーズ船「飛鳥Ⅲ」が横浜港大さん橋国際旅客ターミナルからデビュークルーズへと出航しました。本作品は、その記念すべき就航セレモニーの様子を、魚眼レンズを用いて船体と見物客を画面いっぱいに大胆に俯瞰撮影したものです。魚眼レンズならではの空間の広がりと立体感が強調され、現場の熱気がそのまま伝わってくる臨場感あふれる作品に仕上がっています。歓声やプラスバンドの音色、そして出航を告げる汽笛までもが、今にも聞こえてきそうです。



出張「ねぶた」  
(公社)日本港湾協会会長賞

宮田敏幸 神戸港



青森県弘前市のPR事業として、2022年から毎年神戸ハーバーランドで開催されている「弘前ねぶた祭」。本作品は、神戸港のシンボルであるメリケンパークの建物群とねぶたの鮮やかなイルミネーション、そして大勢の見物客を巧みに一つの構図に収め、観光都市・神戸の魅力と賑わいを凝縮した一枚です。人々の優しさや温もりを感じさせるオレンジの色調も非常に効果的で、どこかほっとする雰囲気までも伝わってきます。折しも、阪神・淡路大震災から今年で30年。壊滅的な被害を受けた当時の神戸港の姿を思い返すと、深い感慨を覚えます。

# 「港の風景」写真コンテスト 2025



港湾海岸防災協議会会長賞  
山室正輝  
四日市港

## 陸海空の防災訓練



日本有数の石油化学コンビナートを擁する四日市港。本作品は、消防出初式のハイライトである陸・海・空の一斉放水訓練の瞬間を見事に捉えています。シンボリックな煙突を中心としたコンビナート施設群を背景に据え、消防車・消防艇・消防ヘリをバランスよく配置。赤と白の鮮やかなコントラストが美しく、力強い印象を与えています。絶妙な撮影ポジションを選択し、高い防災意識をもつ作者だからこそ撮影できた一枚です。



部門賞「みんなの活動」  
浜田 誉  
喜入港（鹿児島県）

## 深夜の石油基地

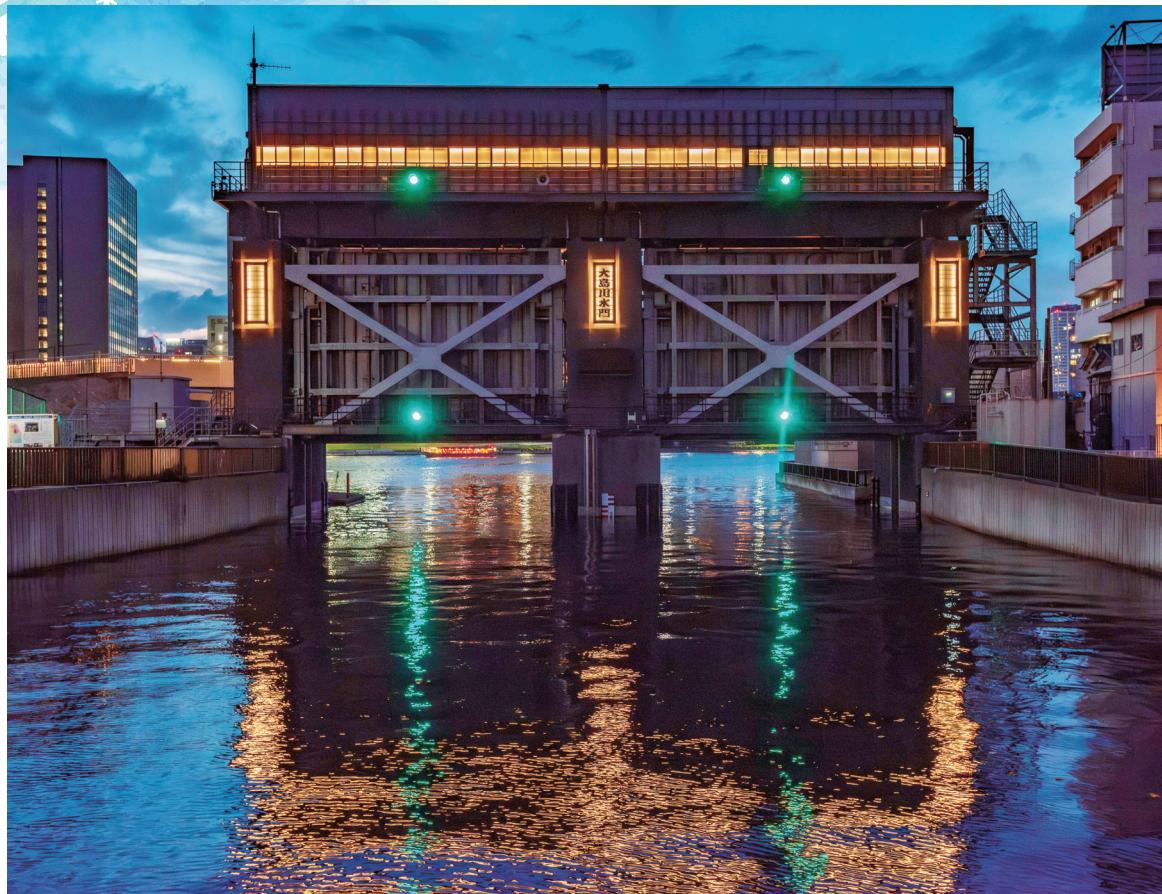


巨大な石油基地を有する鹿児島県・喜入港。産油国と国内各地の製油所を結ぶ原油の中継備蓄基地として、日本の経済と産業活動を支える重要な役割を担っています。本作品は、人々が寝静まる深夜の時間帯に稼働する大型タンカーと原油タンク群を、望遠レンズの圧縮効果を活かして捉えた迫力ある一枚です。幾何学的でメカニカルな施設群がディテールまでシャープに描写され、その存在感がより一層強調されています。私たちの平穏な暮らしを支えるために、昼夜を問わず365日休むことなく稼働し続けるインフラ施設。その尊さがしみじみと伝わってくる作品です。



部門賞「防災」

小森一美  
東京港大島川水門



東京・大横川と隅田川の合流地点に位置する大島川水門。高潮などの水害から地域を守るために設けられた防潮水門です。本来は強固で重厚な施設ですが、本作品では、夕暮れのオレンジ色の照明に照らされた温かみのある姿が印象的に描写されています。私たちの暮らしの安全と安心を静かに支えるこの水門が、まるで優しく寄り添い見守ってくれているかのようです。そんな水門への感謝の気持ちが込められた一枚です。



部門賞「賑わい」

重田圭介  
横浜港



日本を代表するクルーズ拠点港、横浜港。本作品は、世界中のクルーズ船で賑わう港の様子を俯瞰視点で捉え、クルーズ船や港湾施設、さらに背後に広がる街並みを画面いっぱいに収めています。そのため、大型クルーズ船の圧倒的なスケール感が存分に伝わってきます。手前の新港ふ頭に1隻、大さん橋に2隻、さらにベイブリッジの奥に位置する大黒ふ頭にも1隻。合計4隻もの大型クルーズ船が同時に寄港するという、非常に貴重なシーンが見事に記録されています。青い海と白い船体のコントラストも美しく印象的です。

部門賞「自然・歴史」

藤井昭浩  
古宇港(静岡県)



冬の風物詩



富士山を望む静岡県沼津市の古宇港。伊豆半島越しに駿河湾と富士山が織りなす絶景の中、カモメが一斉に飛び立つ瞬間を見事に捉えた作品です。安定した構図と躍動感あふれるカモメの動きが絶妙に調和し、美しさだけでなく、ダイナミックでリズム感あふれる一枚に仕上がっています。作者は、この瞬間を捉えるために3年間通い続けたといいます。その執念と情熱が結実した価値ある作品です。

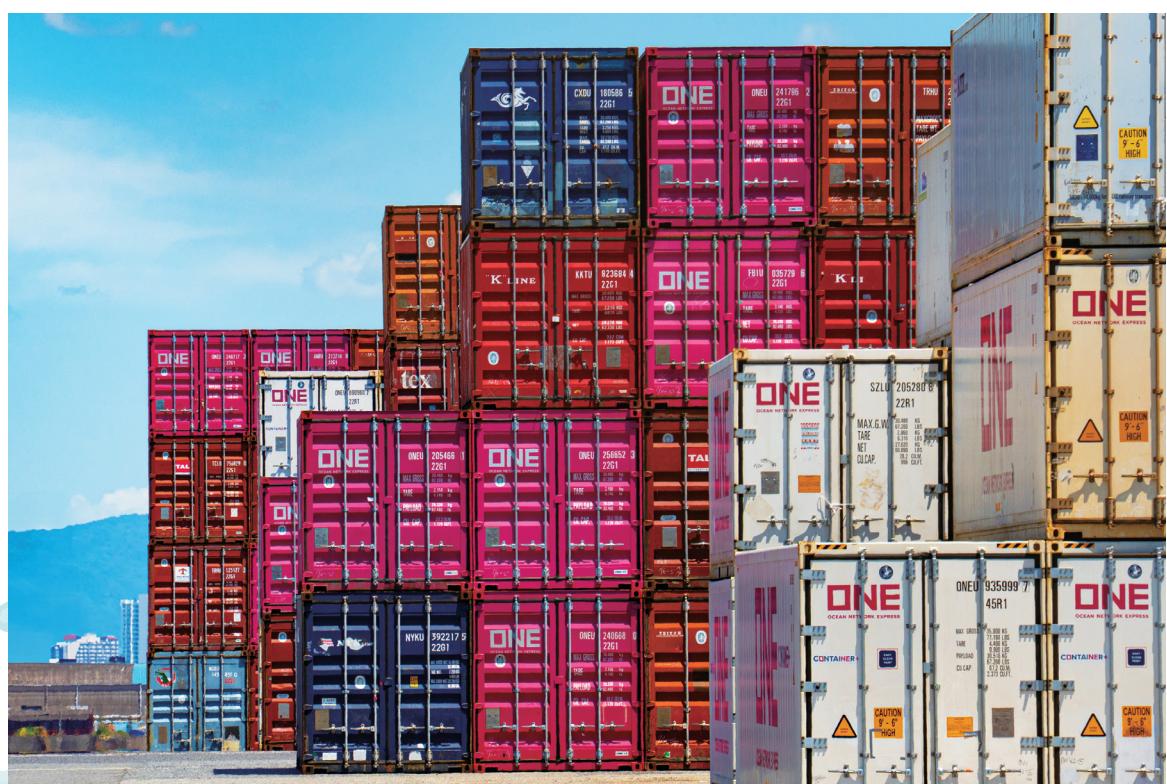
「港の風景」写真コンテスト 2025

優秀賞

多養元秀  
大阪南港



カラーボックス



国際コンテナ戦略港湾・阪神港の一翼を担う大阪港咲洲コンテナターミナル。その一角にある空コンテナ置き場での一コマを捉えた作品でしょうか。青空を背景に積み上げられたコンテナの鮮やかな色彩と、規則的に並ぶ幾何学模様の美しさが印象的です。コンテナターミナルといえば、多忙でダイナミックな光景が思い浮かびますが、本作品はそのイメージとは対照的に、どこかほのぼのとした情景を切り取りました。一見何気ない風景を見逃さず、ひとつの作品に仕上げた作者の観察力と感性が伝わってきます。

# 「港の風景」写真コンテスト2025



優秀賞

宇田川憲一

東京港青海コンテナふ頭

まもなく点検終わります



日本一の外貿コンテナ取扱量を誇る東京港を代表するコンテナターミナルのひとつ、青海コンテナふ頭。その隣接地にある青海南ふ頭公園からは、ガントリークレーンによるダイナミックなコンテナ荷役の様子を間近に眺めることができます。本作品は、ガントリークレーンのスプレッダ（コンテナの連結・切り離しを行う装置）を技術者たちが点検している瞬間を捉えたものでしょうか。どれだけ機械化・自動化が進んでも、港の物流を支えるのは最終的に「人」であることを改めて実感させられる一枚です。



優秀賞

竹内秀明

両津港

船をつなぐ



新潟県佐渡島の海の玄関口である両津港。新潟県本土を結ぶカーフェリーは、旅客輸送や生活物資輸送など島民生活を支える必要な生命線です。この作品は、カーフェリーが着岸する際に係留ロープを岸壁の係船柱に繋ぐ「綱取り作業」のワンシーンを捉えたものです。躍動感あふれ、作業員たちの表情がとても印象的でチームワークの良さが伝わってくる一枚です。絶好のシャッターチャンスを見事に捉えています。

# 「港の風景」写真コンテスト 2025



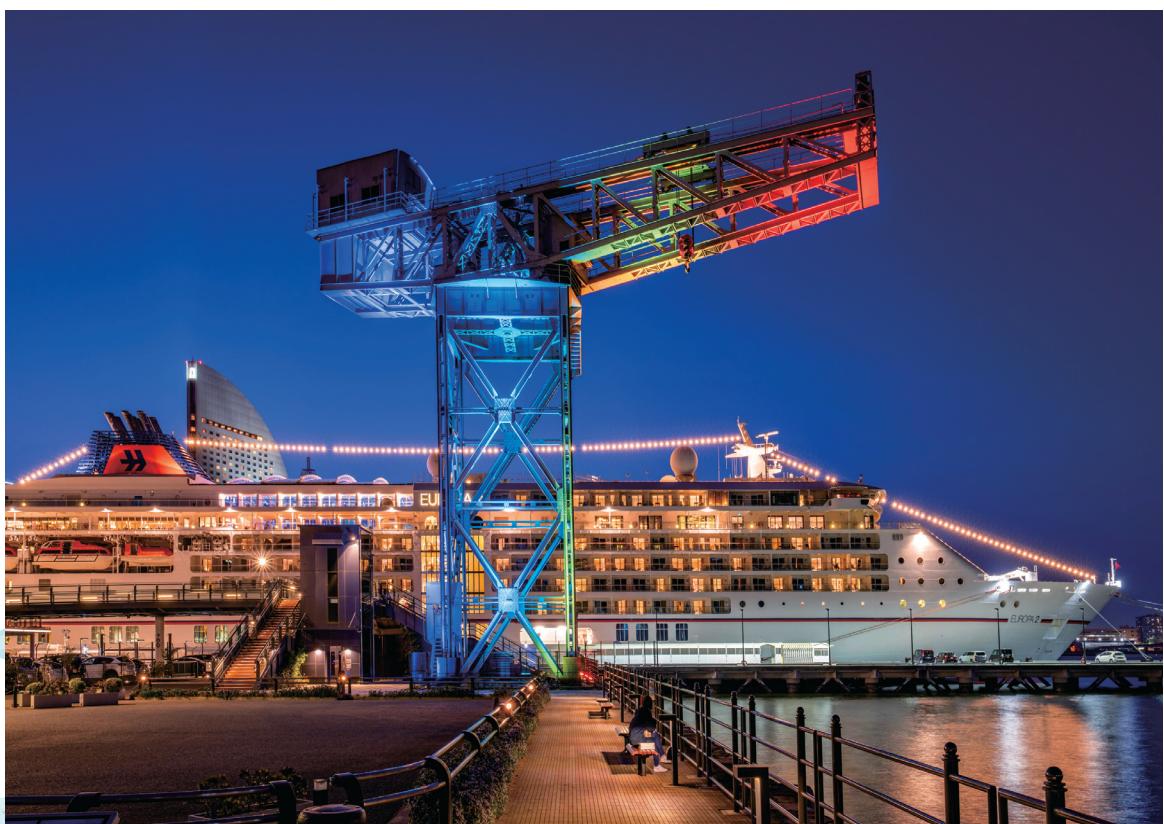
優秀賞  
古川佐代美  
博多港  
歓喜に湧く作業員



博多港の造船所で行われた貨物船の進水式の一コマです。色とりどりのカラー・テープが舞い上がる中、船上で祝福する作業員たちの姿を捉えた作品です。表情は見えなくとも、この日を迎えるまでに幾多の苦難を乗り越え、地道に努力を重ねてきた作業員たちの喜びと安堵の気持ちが伝わってきます。船のスケール感を際立たせる大胆な構図と、絶妙なシャッターチャンスを逃さず捉えた独創性のある一枚です。

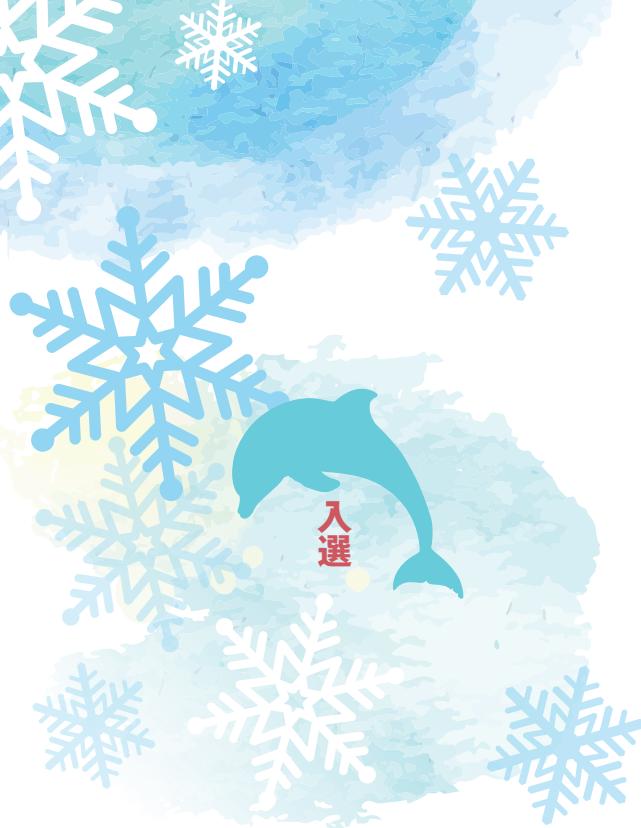


優秀賞  
小城原淳  
横浜港  
初入港を祝う七色のクレーン

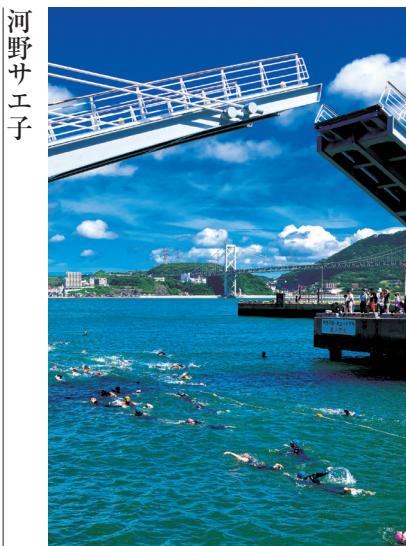


横浜港新港ふ頭旅客ターミナルに初入港したのは、ドイツのクルーズ会社が運航する「オイローパ2」。その入港を迎えたのは、1914年に整備され、近代横浜港の基礎を築いた「横浜港ハンマーヘッドクレーン」です。夜空を背景に、美しくライトアップされた新旧の巨大構造物が競演する姿を、スケール感たっぷりに表現した作品です。活躍する時代も役割も異なる両者ですが、互いに敬意を表し、静かにエールを交換しているかのように見えます。

「港の風景」写真コンテスト2025



河野サエ子  
入選  
盛夏海の競泳



宇田川憲一  
入選  
ロープ受け取りました



入選

東京湾を染めるダイヤモンド富士

小城原淳



入選

最後の鐘の音

松田裕次



入選

筋を解け!

勝浦大貴



# 「港の風景」写真コンテスト 2025

能登正俊

海と空と

入選

真船秀章

遠路はるばる

入選

多賀啓介

アーチ1

入選

樋口真一

黄昏の深色

入選

入選



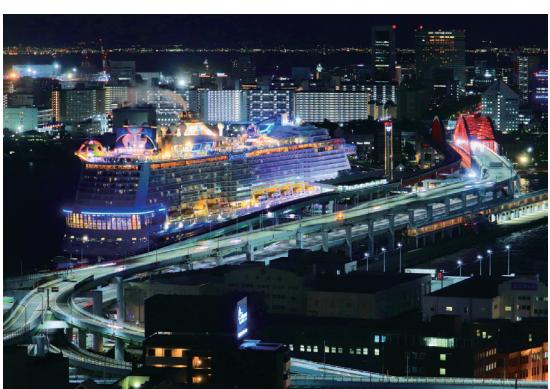
富士山に見けられ  
入選

大島正美



煌めく港  
入選

片岡雅子



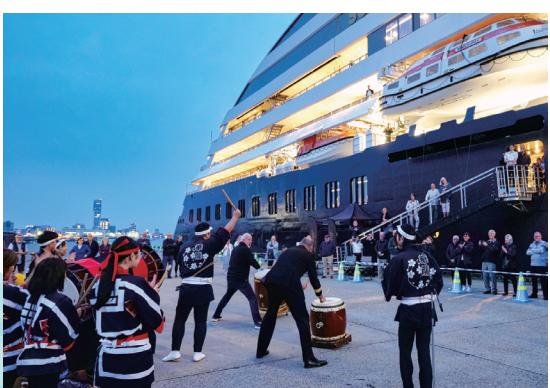
大漁祈願禊ぎ  
入選

末廣周三



Let's try  
入選

刈谷直行





# 「港の風景」写真コンテスト2025

—2025—

入選  
渡部孝明  
ローゼ橋そして半世紀



入選  
大西隆  
大阪関西万博会場建設中



入選  
小西直昭  
みんなとみらいは今日も晴れ



入選  
山崎秀司  
荒海を見守る



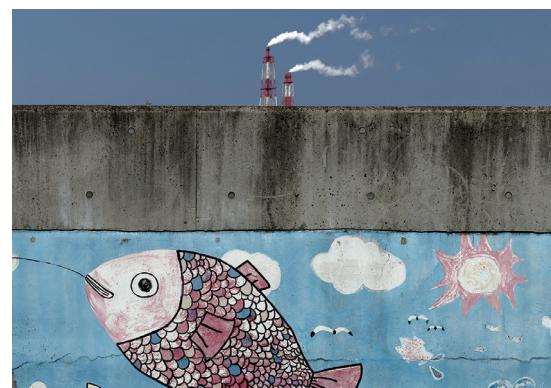
入選



入選  
酒井直人  
茜に眠る港



入選  
金岡明光  
大阪南港の災害訓練



入選  
西川靖弘  
魚たちの見つめる空



入選  
藤松政晴  
世界遺産を臨んで

# 「港の風景」写真コンテスト 2025

光彩陸離  
入選

重田圭介

立山連峰を背に  
入選

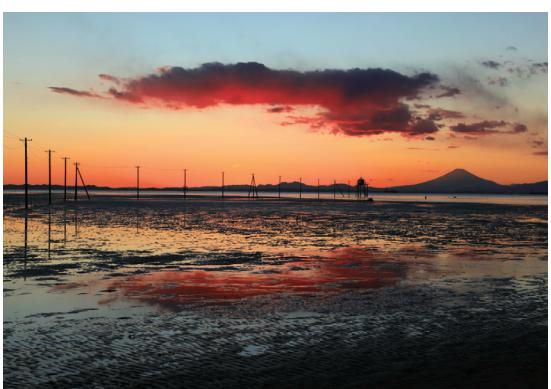
後谷弘

漁港の一日  
入選

寺尾幹男

茜色のタベ  
入選

溝手昌樹



入選



夕暮れの盤州干潟  
入選

茂泉隆二

タグボートは力持ち  
入選

戸崎安司

雪除け  
入選

城田祥男

復興中の金沢港耐震岸壁  
入選

中林義博

# 「港の風景」写真コンテスト2025

入選  
出港前の聴衆

林正和



入選

天満吉宏  
力持ち



国土交通大臣賞

奥谷裕「燃ゆる空」(堺旧港)

国土交通省港湾局長賞

大島正美「飛鳥Ⅲデビュー」  
(横浜港大さん橋国際客船ターミナル)

日本港湾協会会长賞

宮田敏幸「出張「ねぶた」」(神戸港)

港湾海岸防災協議会会长賞

山室正輝「陸海空の防災訓練」(四日市港)

部門賞「みなどの活動」

浜田誉「深夜の石油基地」(喜入港(鹿児島県))

部門賞「防災」

小森一美「優しく見守る大島川水門」(東京港大島川水門)

部門賞「賑わい」

重田圭介「クルーズ船の集う日」(横浜港)

部門賞「自然・歴史」

藤井昭浩「冬の風物詩」(古宇港(静岡県))

優秀賞

多養元秀「カラー BOX」(大阪南港)

宇田川憲一「まもなく点検終わります」

(東京港青海コンテナふ頭)

竹内秀明「船をつなぐ」(両津港)

古川佐代美「歓喜に湧く作業員」(博多港)

小城原淳「初入港を祝う七色のクレーン」(横浜港)

主催

(公社)日本港湾協会  
港湾海岸防災協議会

後援

国土交通省

協賛

- (一社)日本旅客船協会
- (一社)ウォーターフロント協会
- (一社)日本外航客船協会
- (一社)日本マリーナ・ビーチ協会
- (一財)みなと総合研究財団
- (一財)港湾空港総合技術センター
- 富士フィルムイメージングシステムズ(株)

入選

河野サエ子「盛夏海の競泳」(門司港)

宇田川憲一「ロープ受け取りました」(東京港青海コンテナふ頭)

小城原淳「東京湾を染めるダイヤモンド富士」(浦安海岸)

松田裕次「最後の鐘の音」(佐伯港(大分県))

勝浦大貴「舫を解け！」(徳島港)

大島正美「富士山に見守られ」(横浜港)

片岡雅子「煌めく港」(神戸港)

末廣周三「大漁祈願禊ぎ」(駿之浦漁港(北九州市))

刈谷直行「Let's try」(新潟西港)

能登正俊「海と空と」(東京港)

真船秀章「遠路はるばる」(那覇港)

多賀啓介「アーチ1」(神戸港六甲アイランド)

樋口真一「黄昏の深色」(大阪港)

渡部孝明「ローゼ橋そして半世紀」(西郷港(島根県))

大西隆「大阪関西万博会場建設中」(大阪港)

小西直昭「みなとみらいは今日も晴れ」(横浜港)

山崎秀司「荒海を見守る」(間人漁港(京都府))

酒井直人「茜に眠る港」(江口漁港(鹿児島県))

金岡明光「大阪南港の災害訓練」(大阪南港)

西川靖弘「魚たちの見つめる空」(高師浜(大阪府))

藤松政晴「世界遺産を臨んで」(長崎港)

茂泉隆二「夕暮れの盤州干潟」(東京湾)

戸崎安司「タグボートは力持ち」(千葉港)

城田祥男「雪除け」(津居山港(兵庫県))

中林義博「復興中の金沢港耐震岸壁」(金沢港)

重田圭介「光彩陸離」(横浜港)

後谷弘「立山連峰を背に」(富山新港)

寺尾幹男「漁港の一日」(神子漁港(福井県))

溝手昌樹「茜色の夕べ」(宇野港)

林正和「出港前の聴衆」(大阪港)

天満吉宏「力持ち」(木更津港)

審査員(順不同・敬称略)

齋藤 潮(東京工業大学(現東京科学大学)名誉教授)

廻 洋子(敬愛大学特任教授)

松野正雄(写真家)

逸見 仁(写真家)

西村尚己(写真家/アフロ)

馬場 智(国土交通省港湾局海洋・環境課長)

佐々木規雄(国土交通省港湾局海岸・防災課長)

大脇 崇((公社)日本港湾協会理事長)